

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
1 国民 に 対 し て 提 供 す る サ ー ビ ス そ の 他 の 業 務 の 質 の 向 上 に 関 す る 目 標 を 達 成 す る た め に 取 る べき 措 置	1 ・ 1 教育 に 関 す る 事 項	<p>(1)</p> <p>入学 者 の 確 保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県下の中学校、滋賀県・石川県の入試実績のある中学校には、在学生及び卒業生の近況報告をし、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。 ・プロモーションビデオ「高専という選択」を作り直し、本校ホームページの入試広報を充実させ、本校カレッジガイド及び学校紹介リーフレットを福井県・滋賀県の全中学校に配布、さらに、石川県及び京都府の一部の中学校にも配布し、加えて地元メディア、新聞等を通じての広報活動を行う。 ・中学生(女子中学生を含む)及び保護者、中学校教員等を対象とした入試説明会を開催する。さらに各中学校が開催する高校説明会にも積極的に説明教員を派遣する。 ・舞鶴高専他の第3ブロック内高専と連携して、合同説明会の開催を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県中学校:延べ99校、滋賀県中学校:延べ56校、石川県中学校:5校を訪問し、在校生、卒業生の近況報告並びに本校の現状を各中学の校長先生、中学3年の担任の先生に説明をした。 ・プロモーションビデオ「高専という選択」を作り直した。カレッジガイド、リーフレット、募集要項等を福井県中学校:78校、滋賀県中学校:106校、石川県中学校:31校に配布した。福井新聞に4回に渡って、オープンキャンパスの告知、入試説明会の告知を行った。 ・10月から11月にかけて入試説明会を開催した。各中学校で開催される高校説明会にも参加した(17校)。 ・第3ブロック内高専と連携して、合同説明会の開催を模索してミーティングを8月23日に小倉で開催したが、合同説明会までの話に至らず、情報交換を行うということになった。
	1 ・ 1 教育 に 関 す る 事 項	<p>(2)</p> <p>教育 課 程 の 編 成 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校オープンキャンパス、学生会主催のわくわく実験体験などで、説明役の学生に女子学生を積極的に登用し、中学生(女子中学生を含む)や小学生、その保護者に優秀な女子学生の存在を知らしめ、広報する。 ・本校ホームページの映画版を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のオープンツアーにおいて、33名の現役女子学生が説明役となった。このときの参加女子中学生数は116名である。また、10月のオープンリサーチにおいて、10名の現役女子学生が説明役となり、このときの参加女子中学生数は60名であった。さらに、10月のオープンリサーチにおいては、保護者向けのOB・OG講演会を開催し、女性の卒業生2名に講演をしていただいた。高専祭における学生会主催のわくわく実験体験では、6名の女子学生が説明役となった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の質を上げることを目的に、在学生等の受験時、入学後の調査を行い、推薦制度の改正を行う。 ・専攻科の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、入学選抜に関する検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去10年の入学生・在学生に対して、成績等の追跡調査を行い、分析し、教務委員会、教員会議で報告をした。その結果、入学者選抜の方法について検討をすることにし、次年度も継続して検討することになった。 ・専攻科の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、入学選抜に関する検討、特に英語に関する検討を行った。専攻科推薦選抜実施後、推薦選抜に英語による質疑応答を含めることについて専攻科委員会において検討を行った。並行して本校英語科主任と打合せを重ね、12月2日の打合せで具体的な実施方法について大筋合意した。次年度専攻科推薦選抜より英語による質疑応答を実施することを専攻科委員会にて議決し、学校運営会議にて報告、このことを募集要項に明記し教員会議にて報告した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学生から新教育課程を導入しており、学際カリキュラムが本格運用されて2年目であり、本年度は新科目「プロジェクト演習」が開講され、学際カリキュラムの目玉科目であり、学生に融合複合型の思考を身に付けさせる目的のこの科目を充実させる。 ・専攻科の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、入学選抜に関する状況に応じた改善を行う。 ・福井大学と本校専攻科で連携した教育プログラムの構築について検討する。 ・本科では全員参加を基本としてインターンシップの受け入れ先の確保を目指す。また、専攻科のインターンシップでは特別研究指導教員が研修先を斡旋し、専攻科生全員にインターンシップに参加させる。 ・インターンシップ中の研修日誌では企業の方からコメントをもらうことで、社会人に求められる人材育成に繋げる。 ・インターンシップ後は報告会を実施するとともに、専攻科生が作成した報告書は研修先の企業の方にもチェックしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロジェクト演習」のため、平成31年2月から6回教員間の打ち合わせを行い、指導のやり方、発表の仕方などを検討した。また、教科担当者は、3月に「発想法」の研修会を受け、授業に応用した。最終発表において、県内企業に勤めている卒業生に審査、アドバイス等をいただき、学生と交流する機会をもった。 ・専攻科生が作成したインターンシップ報告書を、11月8日に研修先企業宛送付し、チェックして頂いた。
			<ul style="list-style-type: none"> ・本科4年生は181名がインターンシップに参加した。また、専攻科生のインターンシップでは主に特別研究指導教員が研修先を斡旋し、専攻科生全員28名がインターンシップに参加した。 ・インターンシップ中の研修日誌では企業の方からコメントをもらうことで、社会人に求められる人材育成に繋がった。 ・7月25日に本科4年生を対象にインターンシップ事前ガイダンスを実施した。インターンシップ後の報告会を、専攻科生は10月9日に、本科生は10月21日に実施した。 ・専攻科生が作成したインターンシップ報告書は、研修先の企業の方にもチェックしていただいた。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

	福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科「海外インターンシップ」で積極的に海外に学生を派遣する。 ・設立された基金等を活用し、国内外の国際会議に積極的に学生派遣して、発表させる。 ・コミュニケーション能力としての使える英語力育成に努めるとともに、低学年向けの英語教科書を作成する。 ・高専機構本部の②-1、②-2の施策への参加を申請する。 ・海外の企業または大学における海外インターンシップに学生を参加させる。 ・ISATE2019(周南市)に教員を参加させる。 ・TOEIC IPからTEICへの移行に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科「海外インターンシップ」に5名の学生を派遣した。 ・高専低学年向けの英語教材の作成について専門科目・一般科目教員で検討した結果、教材作成の前に、英語を用いて授業を行う必要性について検討され、英語での授業を広く学校内で普及していくための素地づくりの必要性を話し合った。具体的には、英語で授業を行うための課題を明確にし、そのために必要な対策について考えること、英語での授業を行うための研究会の開催の必要性、英語での授業の実践事例の共有の必要性などについて話し合われた。 ・専攻科1年生の海外インターンシップにおいて、株式会社村田製作所(フィリピン、8/26～9/10)で2名、D-SOFT株式会社(ベトナム、8/19～9/14)で1名、井上商事株式会社(ドイツ、8/28～9/20)で1名、増永眼鏡株式会社(マレーシア、9/1～9/23)で1名が研修を行った。 ・本校協定校のプリンスオブソクラ大学工学部(タイ)から機械工学に2名の短期留学生を5/27-7/27の約2ヶ月間受け入れた。 ・高専機構協定校のキングモンクット工科大学ラートクラバン校(タイ)から電子情報工学科に1名の短期留学生を6/17～7/12の約1ヶ月間受け入れた。 ・9/17～20に周南市で開催されたISATE2019に教員1名が参加し、「Liberal Arts as a Learning Motivator for NIT Students」のタイトルで研究成果を発表した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト及び高専体育大会への積極的な参加を奨励するとともに、地域と連携したプロジェクト等にも積極的に参加を促す。 ・学生のものづくり志向を涵養する「福井高専キャンパスプロジェクト」を継続して実施し、効果的な報告会の実施と合わせて、学生の企画立案から実践に至るまでの一連の能力の更なる涵養に努める。 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図る。 ・学生のボランティアに関する活動機会の情報共有を積極的に進め、同活動を支援する。特に、美化活動や除雪ボランティア、災害ボランティア活動を積極的に奨励する。併せて、顕著なボランティア活動を行った学生を表彰する既存制度等のインセンティブを積極的に周知する。 ・特長ある地域性の高いコンテストとして、マグネットコンテストを継続的に推進する。 ・トビタテ！留学JAPANに学生を応募させる。 ・ISTS2019(未定)に学生を応募させる。 ・海外留学等の実績を報告会やホームページ等で公開するなど、参加希望者の増加に向けた取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度福井県高等学校春期総合体育大会の陸上競技、サッカー競技、少林寺拳法競技、バスケットボール競技、バレーボール競技、卓球競技、ハンドボール競技、テニス競技、ソフトテニス競技、ソフトボール競技、水泳競技に出場した。少林寺拳法競技では男子団体演武及び男子組演武で最優秀賞を受賞し、全国大会(インターハイ)出場を果たした。テニス競技では団体で3位に入賞し、北信越大会出場を果たした。水泳競技では男子総合2位の好成績を収めるとともに、複数の種目で北信越大会出場を果たした。 ・福井新聞社主催の宇宙アイデアソンに本校女子学生チームが出場し1位を獲得、第32回宇宙技術及び科学の国際シンポジウム(ISTS)でポスター発表を行った。 ・北陸地方ARDF競技大会2019に本校アマチュア無線研究会のメンバーが出場し、W19クラスで総合1位、M19クラスで総合2位、M21クラスで総合2位の好成績を残した。入賞したメンバーは2019全日本ARDF競技大会(10月)に出場し、クラシック競技(M21クラス)で2位、同W19クラスで2位、スプリント競技で男子1名が優勝、女子1名が2位となる好成績を残した。 ・全国高等専門学校体育大会(8月)には、地区大会を制した野球、水泳、剣道(個人)、テニス(個人)の4競技で出場を果たした。水泳競技では3種目で全国制覇を果たした。 ・ロボットコンテスト2019東海北陸地区大会(10月)に2チームが出場し、内1チームが技術賞と特別賞を受賞し、11月に行われた全国大会に出場した。 ・第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(10月)に出場した。 ・第16回全国高等専門学校デザインコンペティション(12月)に出場し、AMデザイン部門で審査員特別賞を受賞した。 ・北陸イノベーショントライアル(HIT)2019(11月)においてプログラミング研究会チームが優秀賞を受賞し、起業家甲子園への出場権及びシリコンバレー研修旅行の権利を獲得した。 ・第13回英語プレゼンテーションコンテスト(1月)を本校主管で開催し、本校から出場した学生がチーム部門において優勝するとともに文部科学大臣賞を受賞した。 <p>・「福井高専キャンパスプロジェクト」を昨年度に引き続き予算規模を拡大して募集し、11件についてプロジェクトを認めた。これらのプロジェクトに参画した学生は、活動成果をもとに12月に報告会を行った。校内に花を植えたプランターを設置する、防火水槽の水をろ過する、駐輪場を整備するといった自主的な校内環境改善の取り組みを始めとするプロジェクトの報告があり、協賛企業関係者から熱心なアドバイスと講評をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の「福井高専キャンパスプロジェクト」の採択テーマである「災害時非常通信のための移動型太陽光電源システムの製作」における成果物は、10月に行われた学校全体の防災訓練において周知された。 ・昨年度学生会活動の拠点である学生会室を利便性の高い福利厚生施設1階(食堂横)に移設した。本年度の「福井高専キャンパスプロジェクト」の中で、この場所のより有効な活用方法について学生のアイデアがまとめられ、12月の報告会で発表された。 ・福井県から令和3年度高校総体に向けカウントダウンボード製作の依頼があり、取り組みを行っている。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
			<ul style="list-style-type: none"> ・学習面での問題に起因した悩みの解消の場として昨年度開設した「第2学生相談室」を、本校非常勤講師や本校OB/OG教員の協力を得て今年度も運用し、昨年度比で人数は5倍(5人)、時間数は約2.6倍(25.5時間)となっている。 ・機構通知30高機学第155号「課外活動の在り方及び寮業務に関する総合的な方針」に基づき「福井高専における課外活動の在り方」を審議し、①部・同好会活動の顧問の再定義、②単独で引率可能な課外活動指導員の採用、③学校として(全体での)指導教員配置方法の検討、④課外活動に関する議案の取り扱いの見直し、⑤適切な休養日の設定について基本方針を定めた。令和2年度からの施行に向け、関係規則等の改正を行った。 ・部・同好会の精査(整理)により、廃部2件、同好会から部への昇格2件が決まっている。 ・部・同好会の活動状況を調査し適切な休養について確認したうえで、顧問業務の軽減や平滑化の推進のため特に負担が大きい部活動に8名の指導教員Bを配置した。 ・今年度課外活動指導員の雇用に関する関係規則を制定したうえで、令和2年度からの運用開始に向けて準備を進めた。 ・8年間継続して実施している鯖江市立神明保育所の保育ボランティア(9月)に、今年度は11名の学生が参加した。 ・学生会主催で毎年クリーン大作戦(10月)を実施し、本校を起点に鯖江市内・越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれてゴミ拾い(ボランティア)を行った。 ・今年度は初めての取り組みとして、芦原青年の家において開催の小学校4～6年生を対象としたウィンターチャレンジ(12月)にボランティアスタッフとして環境都市工学科の学生4名が参加し、子どもたちのワークショップ等をサポートした。 ・学生による顕著なボランティア活動に対する表彰については、現行の学生表彰規則で定められていることを関係会議で改めて周知し、教職員からの積極的なボランティア活動の斡旋を促した。 ・トビタテ！留学JAPAN地域人材コースに専攻科1年の学生が応募して採択され、福井県の井上商事株式会社の支援を受けて研修(ドイツ、8/28-9/20)を行った。また、トビタテ！留学JAPAN大学生コースに応募していた専攻科2年の学生はアメリカでの研修プログラムで採択されたが、残念ながら私事都合で辞退した。 ・次年度に渡航するトビタテ！留学JAPAN高校生コースに本科1年生1名と2年生2名の計3名が応募した。 ・5/20に「オーストラリア研修旅行報告会」、11/14に「福井高専生の海外研修報告会」を学内で開催し(参加者81名)、海外での研修やインターンシップの実績を学生や教職員に公開し、参加希望者の増加に向けた取り組みを行った。また、短期留学生受入の情報をホームページで紹介した。 ・本校主催のグローバルエンジニアになるための海外研修旅行を隔年から毎年実施に変更し、オーストラリアのメルボルンで実施するプログラムを新たに企画した。10/15と10/16の計2回、説明会を実施した結果(参加者38名)、全学科の1～4年生から計27名の応募があった。3/21～31に11日間の研修を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止することとなった。その説明会を2/13に開催し、参加学生と保護者の理解を求めた。 ・新たな海外研修としてマレーシアにおけるプログラムを開発する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期することとなった。 ・ISTS2019(タイ)への参加募集を行ったが応募には至らなかった。
(3) 多様かつ優れた教員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように採用人事で以下のような工夫を凝らす。 ①専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように採用人事で以下のような工夫を凝らした。 ①専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げた[機械工学科・電気電子工学科・物質工学科・環境都市工学科の教員公募]。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ②企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の導入を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の導入について検討を行い、周知を図った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ③ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取得を促す。また、女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教職員からの要望に基づき、令和元年度は複利施設1階女子トイレの和式トイレ1箇所を洋式に令和2年3月に改修する予定であったが、コロナウィルスの影響で製品の納期が遅れ令和2年5月頃には工事が完成する見込みであり、引き続き女性教職員の就業環境改善に努める。 	

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
		④外国語の授業では、ネイティブな教員を配置するよう努める。	・外国語の授業では、非常勤講師としては外国人教員を採用しているが、現在、常勤としてネイティブな教員を配置するよう努めている。令和元年度において、外国語の教員の募集はしたが採用には至らなかった。
		⑤高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して、人事交流情報について周知するとともに、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供する。	・高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して、人事交流情報について周知するとともに、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供するよう努めている。また来年度より、タイ高専への出向1名が決定したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で出向が保留の状態となっている。
		⑥他の教員の模範となるような成果をあげている教職員によるFD講演会を開催し、教職員の資質能力向上に対するモチベーションの涵養を図る。 外部講師を招へいたFD講演会、FD研修会を企画開催する。 全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。 福井県大学間連携事業(フレックス)主催のFD研修会やワークショップへ参加する。 アクティブラーニング等に関する講習会へ参加するとともに、ブロックや地区の高専との情報共有を図る。	・平成29年度の授業アンケートで学生の評価が高かった教員および校長表彰された教員の計2名が、6月26日の令和元年度第1回FD講演会で講演を行った。 ・8月の高専フォーラムには16名の教職員が参加。オーガナイズドセッションでは1名が発表、ポスター発表は6名であった。 ・9月9日、10日に福井県立大学で行われたフレックス合宿研修会に、4名の教員が参加した。 ・第3ブロックAL推進研究会(年4回)に創造教育開発センター員が参加。1月31日には、本校教員がTeamsを用いて授業を公開・配信した。 ・3月9日、13日に、元福井工大教授を講師に「デザインのサーヴェイサーヴェイのコソウ」というタイトルでFD研修会を行った。14名の教員が参加した。
		⑦教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員表彰対象者として推薦する。また、非常勤職員を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。	・教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員表彰対象者として推薦することとしている。また、非常勤職員を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施し、教員2名、事務職員2名及び学内の組織(教育研究支援センター)を表彰した。
(4)	教育の質の向上及び改善	①-1 モデルコアカリキュラムや本校独自の特色ある教育(プロジェクト演習)について、PDCAサイクルを構築し定着させる。また、各学科及び教科ごとに教育の質の向上に取り組む。 以下、学科及び教科ごとに示す。 【機械工学科】 ・機械工学実験の実質的な成果の向上を図るため、その内容と実施方法を検討し、変更する。 ・設計製図の授業を、実務上の経験に基づいた内容で実施する。 ・低学年の実習において、達成度の自己スキル評価を実施し、学生の学習に対する目的意識の向上を図るとともに、その実施方法の改善を検討していく。 ・短期留学生を受け入れ、異文化交流ならびにグローバル化に対する意識の向上を図る。 ・昨年度開講した3学年の学際科目の状況を踏まえ、今年度開講する学際科目の内容を検討し、実施する。さらに、来年度開講する5学年の学際科目の内容を検討する。 ・従来から積極的に実施しているグループワークや課題解決型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を継続して実施する。	(4) 教育の質の向上及び改善 ①-1 モデルコアカリキュラムや本校独自の特色ある教育(プロジェクト演習)について、PDCAサイクルを構築し定着させるように努めている。また、各学科及び教科ごとに教育の質の向上に取り組んでいる。 各学科及び教科ごとの現状は、以下のとおり。 【機械工学科】 ・機械工学実験I・IIにおいて1テーマ2週から3週に変更し、1テーマあたりの時間を増やした。また、学習効果の向上を図るため、工作実習と関連の強い実験テーマについては、工作実習の中で実施する形式に改めた。さらに、実験テーマの整理統合と内容の充実を図り、実験に関する教育の質の向上を実行した。 ・5学年前期のCAD・CAEの授業において、機械設計の実務に携わっている本校卒業生の現役技術者を科目担当者とし、実務上の経験を踏まえた内容の授業とした。 ・学生の学習に対する目的意識の向上を目的として、低学年の実習において、達成度の自己スキル評価を実施した。 ・5月末から7月末にかけてPSUの短期留学生2名を受け入れた。機械工学科の学生が、留学生との交流を深め、異文化との交流を体験することで、グローバル化に対する意識の向上を図った。 ・昨年度から開講している3学年の学際科目の状況を踏まえ、今年度後期の新規開講科目である4学年の「機械材料」の内容を吟味し、穴うめ式のスライド資料を配布してスライドを投影しながら進める形式で実施した。また、これまでの学際科目の状況を踏まえ、来年度開講する5学年の「ロボットシステム」の内容を検討した。 ・従来から積極的に実施しているグループワークや課題解決型学習、アクティブラーニングを取り入れた授業を継続して実施した。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

	福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
	<p>【電気電子工学科】 ・モデルコアカリキュラムへの対応を継続的に検討し、ルーブリック等による到達度評価方法を含めてWebシラバスに教育内容を明記したので、これに沿って教育実践を行う。 ・モデルコア・カリキュラムを反映させた教育プログラムを実践した科目の評価を行い、必要に応じ内容を再検討し、更なる教育の質の向上を図る。また、モデルコアカリキュラムにおける電気系分野の実験・実習能力の実質化についての検討を行う。 ・従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論し、学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指したものづくり教育を推進する。 ・従来から取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育を外部資金を獲得し、継続的に実施する。</p> <p>【電子情報工学科】 ①-1 [Plan]モデルコアカリキュラム(MCC)及び専攻科の授業科目の充実に対応したカリキュラムを構成しており、そのシラバスの到達目標がディプロマポリシーの3つの能力に適合しているか確認する。 [Do]学外のICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組みを目指す。また、その成果を様々なコンテストや発表会で発表していく。 [Check]試験、レポート成績だけでなく実験スキルシート、授業アンケート等の結果を用いて学生自身が感じる達成感を調査する。 [Action]低学年における基礎能力(ライティング、リーディング、計算)の向上のための仕組みの検討、及びソフトウェア教育への比重を大きくすることの検討、BYODの活用事例の紹介による授業改善、利用機会の増加及びPC利用環境の整備を行っていく。</p> <p>【物質工学科】 ・モデルコアカリキュラムへの対応、専攻科専門展開科目の充実及び大学編入学への対応を考慮に入れた教育課程の改訂を平成28年度入学性から実施しており、来年度が完成年度となる。改訂が一番多い第5学年の授業内容や担当教員について詳細に検討を行う。 ・入試広報に関連して、ホームページの充実、学科パンフレット及び入試説明会資料の刷新を行う。</p> <p>【環境都市工学科】 ・ディプロマ・ポリシーに付随する学科独自の教育目標を達成するために、これまでに3次にわたる学則の一部改正(教育課程編成の変更)を行ってきた。これによる教育の質的向上並びに学習意欲の高揚を推し量る尺度に、①休学率(疾病、怪我を除く。)、②原級留置率、③退学率、④デザインコンペティションの成績、⑤資格(技術士一次試験、測量士試験、測量士補試験、コンクリート製品検定試験など)取得者数を充ち、実態を数値化・可視化することで次なる教育改善に役立てる。</p>	<p>【電気電子工学科】 ・モデルコアカリキュラムへの対応を4月22日、5月21日の教室会議にて検討した。ルーブリック等による到達度評価方法を含めて今年度のWebシラバスに教育内容を明記し、これに沿って各授業において教育実践を行った。 ・9月19日の教室会議にて、モデルコア・カリキュラムを反映させた教育プログラムを実践した科目の評価を行い、各教員が更なる教育の質の向上を図るべく必要に応じ内容を再検討した。また、9月19日の教室会議にて、2年生実験の実験スキル評価シートについて検討し、後期の実験にて実施した。3月17日の教室会議にて、令和2年度導入する3年生実験におけるスキル評価シートを作成した。 ・7月16日、8月9日の教室会議にて、従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論した。今後は学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指すこととした。 ・以前から取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育を継続的に実施し、福井大学、舞鶴高専、岐阜高専と連携した取り組みも行っている(国際原子人材育成カイニシアチブ事業)。今年度の運営会議を9月25日に実施し、今年度の報告書を3月30日に福井大学へ提出した。</p> <p>【電子情報工学科】 ・ディプロマポリシーに関しては、今回は変更なしとし、カリキュラムポリシーの修正を行うことを決めWG立ち上げを決定した。 ・企業との協力は今年度も行い、全国プロコン出場となった。また、コンテストへの参加奨励に関しては、全国高専プロコン参加、競技部門、予選リーグ敗退、HIT2019参加、学生部門大賞(2年連続)→起業家甲子園全国大会へ、起業家甲子園全国大会、企業賞受賞、ふくいソフトウェアコンペティション参加、)大賞受賞、システム創生コンテスト、最終的には新型コロナウイルスの関係で中止という結果であった。 ・資格試験への参加奨励に関しては、パソコン検定4級1名、3級1名、基本情報処理技術者試験2名、応用情報技術者試験1名、実用英検準2級14名、工業英検3級1名合格、今後も奨励していく。 ・実験スキルシートによる達成度の調査(2年生42名、1年生42名)を行った。 ・BYODを活用する授業改善は、まず、BYODを活用する授業数が4つ増えた。また、内容に関しても、Moodleを中心に予習、復習に活用できる工夫が始まった。また、導入の時期を半年早め、2年後期からにできないか検討することとなった。 ・低学年における基礎能力の向上のための仕組みの検討に関しては今後も継続する。</p> <p>【物質工学科】 ・カリキュラムの改訂に伴った、科目内容の検討を行った。学科パンフレットの刷新とホームページの更新を行っている。</p> <p>【環境都市工学科】 ・病気療養による休学者1名(来年度当初に復学予定)、校則違反行為に対する処分を受けての退学者1名を除いて、学習意欲の低下や進路変更を理由とする該当者はいなかった。また、成績不振による原級留置者も最小人数に止まった。 ・第16回全国高等専門学校デザインコンペティションの構造デザイン部門に応募した2つの作品の成績は13位と15位であり、ここ数年では最も躍進した。 ・資格取得者数(延べ人数)は例年の通り200名を超えたが、とりわけ、技術士一次試験(建設部門)合格者数は昨年度の4割増しの23名に達した。 ・BYOD導入の対応として、2019年6月に学科内に作業部会を組織して機種やソフトウェアの選定に着手したほか、9月には校長裁量経費を充ちて一室にLANシステムを整備した。</p>

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

	福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
	<p>【一般科目(自然系)】 【数学】 ・これまでに取り入れてきた様々な授業形態(ICT活用やグループ学習など)を継続的に行い、学生の基礎学力の定着と主体的な学びを促す。 ・学生の学習環境(Web教材や授業動画など)を整え、自学自習による授業外の学習習慣を身に着けさせるよう努める。</p> <p>【物理】・【地学】 ・1年生成績不振者対象の補習を継続実施(H30年度はトライアル)。H31年度は前倒し、前期中間試験後に開始。 ・1～2年生対象に単位の書き方やマナーを周知徹底させる。 (数値や物理量について国際標準を意識した正しい記述方法の教育) ・地球科学系の教授内容の精選。</p> <p>【化学・生物】 引き続き、昨年同様 授業中、演習問題を出題し、その日の授業内容を理解させるよう努める。また、できる限り授業の終わりに、簡単な宿題を出す。実験回数についてはできる限り増やすように努める。生物については、昨年導入のコアカリキュラムの生態学について、授業内容を今年も検証する。</p> <p>【体育】 ・1～3学年の体育実技では、個人運動や団体運動における技術や基礎体力の向上について、自己のデータまたはチームの戦績を活用してスポーツに関する知識や科学的理解を深める授業を実践する。 ・1学年の保健や4学年でのショートレクチャー(生活習慣病対策)を基礎として、自己の体格や体力の縦断的推移から健康や体力に関する課題とその対策を考察するレポートを継続して実施する。</p> <p>【一般科目(人文系)】 【国語】 ・2年生で実践的な言語表現として「手紙書き方体験授業」、4年生で就職を見据えた「自己PR文」、「志望動機文」作成の授業を継続し、キャリア教育的取り組みの一環とする。 ・弁論大会などの学校行事、校友会誌の編集・発行にあたって、学生への指導を含めた支援を継続する。 ・語彙力・表現力の涵養、論理的な文章表現能力の育成なかで、学生による発表や議論など、主体的な学びが可能となる授業を行う。 ・5年生の選択必修科目の授業においては、各教員の専門分野に応じ、日本文学・日本語学・日本語教育学の素養が身につくような専門的かつ一般教養的な授業を展開する。</p> <p>【社会】 ・社会科内各科目について、到達目標や学習事項、レベル設定の妥当性を教員間で議論し、改善を図るとともに、令和2年度(2020年度)より開講予定の新設科目「公共社会Ⅱ」及び「公共社会Ⅲ」の具体的な計画を、モデルコアカリキュラムやディプロマポリシーに基づきながら立案する。 ・社会の授業実践等について、他高専との積極的な情報共有を進めるとともに、本校の社会の授業へのフィードバックを検討する。</p>	<p>【一般科目(人文系)】 【数学】 ・複数クラスの授業内で、ICT活用およびグループ活動が継続的に実践できた。そのうち5クラスでは、一部の授業時間内で、動画の視聴による学習を行った。 ・Web教材については、13名の1年生の学生に試験的に取り組んでもらった(10月に実施)。 ・教員および学生TAの指導の下、1年生および2年生の成績不良者(50名程度)の補習(R1年5月～R2年2月の間で19回実施)を行った。 ・数学検定の受検を6月に本校で実施した。受検者数は5名(準1級2名、2級2名、準2級1名)であり、そのうち、2級1名が、合格した。</p> <p>【物理】【地学】 ・前年度に引き続き1年生対象の補習を行っている。対象者は各クラスの間試験下位4名と希望者。前年度より前倒しして、前期中間試験後に開始した。前期4回(7/4、7/11、7/18、7/25)後期(11/7、11/4、11/21、11/28)に実施した。 ・単位の記述方法を統一した。原則として、単位にはカッコを付けない、文字式の場合はカギカッコのみ認める(2年物理の教科書に記載有、国際標準での取り決めに準拠)。定期試験の採点に反映させている。 ・新潟神戸歪集中帯、台風の定義について特に詳しく取り上げた。</p> <p>【化学】【生物】 今年度も授業中、演習問題を出題し、その日の授業内容を理解させるように実施してきた。また、試験終了後および冬休み中には課題をだして、提出させることも実施してきた。生物については、昨年導入のコアカリキュラムの生態学について、この2年間授業内容の模索をしてきた。この結果、来年からはコアカリキュラム中心のカリキュラムを実施する。</p> <p>【体育】 ・個人運動(4～8月)ではスピードや距離などの数値を用いた動きの分析を通して、団体運動(10～2月)ではチームワークや戦術の分析をとおして、技術習得や課題解決の方策を理解できるように指導した。具体的な技術改善やチームの勝利に結びつかなくとも、スポーツにおける論理的思考力が養われた。 ・保健(1学年後期)やショートレクチャー(4学年前期)は試験を行い、全員合格となり、健康教育の基礎が培われた。また、それらが自己の体格指標や体力データを分析するレポート課題における考察としての論述に反映されるよう合格水準に達するまで指導した。</p> <p>【一般科目(人文系)】 【国語】 ・2年生に対して暑中見舞葉書、4年生に対してインターンシップへの応募のための自己PR文、志望動機文の作成指導を行い、実践的な言語表現を通して、学生のキャリア教育的取り組みを行った。 ・弁論大会への参加、校友会誌への応募に際して、学生への指導、支援を行った。また、福井県教育庁高等教育課が行っている、県内各高校による入試合格者に対する推薦図書を選定に、選定委員として参加した。 ・1年生では授業時のスピーチ、2、3年生ではグループワーク、4年生ではプレゼンテーションを行った。これらの活動を通して、学生が論理的に発表や議論を行えるようになるための指導を行った。 ・5年生の選択必修科目の授業は、通年で「日本語表現演習」、前期に「日本文学論」、後期に「言語文化特講」の3つを開講し、各教員の専門分野を活かした授業を行った。</p> <p>【社会】 ・社会科内各科目について、学習事項の精選を行い、2020年度開講の新設科目「公共社会Ⅱ」及び「公共社会Ⅲ」の授業計画を確定させるとともに、社会科内での重複学習事項を整理したカリキュラムを立案した。 ・2022年度に開講される「工学倫理」を準備するために行った情報収集や、各種研修会の結果を、2020年2月26日開催された「社会・技術者倫理教育に関する教員間ネットワーク会議」で、校内全体と共有をした。</p>

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

	福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
	<p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語にかかわる基本的な知識の取得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と工業英語、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、より発展的・実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語や海外に対する興味を喚起するための支援を行う。 <p>【専攻科長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術者教育ワークショップの研修等に教員を派遣し、エンジニアリングデザインに関する教育力のスキルアップに努める。 <p>【創造教育開発センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> Webシラバス、ルーブリックの有効的な活用およびアクティブラーニングなどの教育実践に関して、教員への情報提供を行う。 学際領域カリキュラムの実施と充実を図る。 「卒業生・修了生アンケート」の項目及び実施方法の見直しを行う。 授業評価アンケートのフィードバックと、高評価の教員による講演会の実施。 授業評価アンケートの項目の見直し。 学校全体として、学習支援の在り方の検討。 <p>①ー2 教務主事団を中心に組織的に教育改善プロジェクトに取り組み、効果的なFD研修や個々の教員の授業改善や教材開発を支援するなどして、教育の質の向上を図る。</p>	<p>【英語】</p> <p>基本的な英語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 低学年においては、文法項目の指導と日常的な話題を中心としたコミュニケーション活動、eラーニングなどを行った。高学年においては、プレゼンテーション活動、TOEIC対策演習、eラーニングなど、授業だけでなく授業外での学習にも配慮しながら指導を行った。 2) 全学年で共通の語彙学習教材を用いて、クラスの状態に応じて演習や試験を行いながら基礎学力の向上を図っている。 3) 課外活動として定期的に「イングリッシュカフェ」と称し、海外での留学経験や学習経験のある教員、学生によるセミナーを開催した。また工業英検などの各種対策講座を実施した。 4) 5月に第4学年全学生を対象にTOEICIPの一斉受験、11月に第1学年全学生を対象に工業英検の一斉受験を実施した。 <p>【専攻科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻科では、地域や産業界等が直面する課題の解決を目指した実践的な、課題解決型学習を実施した。県の施策とも関連の深い農工連携、放射線教育、防災・減災の3テーマについて、地元3企業等のご協力・アドバイスを頂きながら、専攻科1年生を対象に課題解決型学習を行った。10月11日、専攻科1年生対象の「創造デザイン演習」の一環として地元企業3社の見学を行った。11月22日には学内で中間報告会を行い、この際に3社からアドバイザとして社員の方々にご来校頂き、報告会にご参加頂くとともに、アドバイスを頂いた。1月17日には企業の社員の方々にご来校頂き、最終報告会を行った。 <p>【創造教育開発センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3ブロックAL推進研究会に、継続的に参加し、センターで報告。1月31日には本校教員がTeams を用いて授業を公開・配信した。 学際カリキュラムの担当者が適宜打合せを行い、進めることができた。「プロジェクト演習」については、企業2社の協力を得て、最終発表を行った。 「FD講演会」を6月26日に実施。 授業アンケートの項目については、1項目のみ修正。 「卒業生・修了生アンケート」の回収率向上については、キャリア支援室にも検討を依頼。検討は継続。 WEBシラバスのシステム更新に伴い、センター員で情報を共有。2月末時点で、公開準備が完了している。 3月9日、13日にPBLや卒研等で活用できる内容のFD研修会を実施。
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、隔年で開催している外部有識者会議を開催し、指摘事項に対して適切な対応を図る。 今秋、機関別認証評価を受審し、評価結果に対しては適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価報告書の作成を行い、機関別認証評価の自己評価書の学内点検を行った。 各担当部署の総括した点検・評価結果を自己点検評価報告書の冒頭に一覧表として出すことで、点検・評価結果を分かり易くした。
	<ul style="list-style-type: none"> 4年生全学生が取り組むPBL型授業「プロジェクト演習」において、地元企業の現役エンジニアの方に発表時の審査をしていただき、学生と交流を図る。 実践的技術者を育成する上での学習の動機付けを強めるため、地域や産業界等が直面する課題の解決を目指した実践的な、課題解決型学習の導入を検討し、実施する。 本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」の会員となっている地元の企業に依頼して企業現場における課題を本校のPBL課題として取り上げ、企業の担当者と連携しながら学生の教育に取り組む新しいコンテンツを開発する。 地域連携アカデミアの会員企業に学生のインターンシップの国内外での受け入れを依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4年生「プロジェクト演習」の第14週めに最終発表を行った。その際に、(株)福井村田製作所、(株)ナチュラルスタイルに勤務する卒業生計10名に審査をしていただき、アドバイス等をいただいた。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
			<ul style="list-style-type: none"> 本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員となっている地元企業((株)サンルックス等)と協力して企業現場の課題をPBLとして取り上げ、専攻科の「創造デザイン演習」というPBL授業において簡易型放射線計測システムの構築を行った。 地域連携アカデミアの会員企業(増永眼鏡(株)、井上商事(株)、(株)福井村田製作所)に専攻科の学生にかかる海外インターンシップの受け入れをお願いし、増永眼鏡に1名、井上商事に1名、福井村田製作所に2名の計4名が参加した。
		<ul style="list-style-type: none"> 長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力する。 技術科学大学との間の有機的な連携を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> アドバンスコースに1名の学生が登録し、受講した。
	(5) 学生支援・生活支援等	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーの来校時間等を見直し、相談体制を充実させる。 平成30年度に設置した第2学生相談室を、担任や学生相談室と連携を取りながら支援の教員を配置して、より学生が利用しやすい環境を整備するなどして効果的に運用する。 地域のソーシャルワーカーとの情報共有を図り、学外の学生支援組織と連携し、活用する。 学外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ教職員を積極的に派遣するとともに、学内においては、教職員向け講演会を企画するなどして、学生指導支援方法に関する情報共有を図り、教職員の資質向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度より1年間にわたり、学外カウンセラー2名が週2日ずつ来校する体制となり、相談体制を充実させることができた。 第2学生相談室は、5名の学生に対して25.5時間活用し、学生の状況改善に役立てた。 福井県特別支援教育センターの指導主事や福井県発達障害者センターと連携し、障害のある学生に対する支援を行った。 学外における前17件の研修会に、のべ24名の教職員を派遣した。また、学内の教職員向けメンタルヘルス関連講演会を、8月1日、9月12日、1月29日の計3回開催し、一般の教職員の資質向上に役立てた。
		<ul style="list-style-type: none"> 高等教育の教育費負担軽減に伴う新たな奨学金制度の開始に向け、学校全体で情報共有を図るとともに、円滑な運用を図る。 各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、本校ホームページや学内グループウェアの掲示板など、広報の機会を増やすなどして学生に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> (新制度を含め)日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板(電子掲示板を含む)での周知とともに担任を経由して情報発信した。特に、今年度は電子掲示板の運用体制を見直し、電子掲示板の設置場所に応じて内容を変える(計4種類の情報を用意する)ことで周知効果の向上を図った。昨年度に引き続き、今年度も就学支援金から授業料免除に切り替わる学年(第4学年)への周知を徹底するため、より理解が容易となるポスターを作成し、学生への配布および掲示を行った。高等教育の教育費負担軽減に伴う新たな奨学金制度については、学校運営会議等で情報共有を図るとともに、対象学生の自宅に当新制度の案内を郵送することに加え、授業料免除を申請した学生に対して郵送する「授業料免除決定通知書」に当新制度の説明を加筆することで周知の徹底を図った。 日本学生支援機構奨学生は23名、その他奨学生は17名であった。また、入学料徴収猶予許可者は0名(申請なし)、授業料免除対象者は、全額免除延べ57名、半額免除延べ62名、卓越した学生全額免除は2名であった。 今後、民間からの給付型の奨学制度も積極的に取り入れ、高等教育の教育費負担軽減を推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> 進路情報(求人票、帰校届など)のフォルダの内容を更新し、学生に利用を促す。また、全国高専共通利用型進路支援システムを活用し、キャリア支援室などのパソコンで求人情報の検索ができるよう利便性を図る。 低学年から高学年まで各学年毎にキャリアガイダンスを行い、キャリア形成や職業意識の向上に努める。 女子学生向けのキャリア形成講習会を実施する。 大学・大学院合同説明会や、キャリア教育セミナー(合同企業説明会)を開催する。 専攻科1年および本科4年を対象に就職対策講座を実施する。 卒業生による先輩講座や在学生による先輩フォーラムを実施して、進路決定までの体験を伝える。 本科4・5年および専攻科1・2年を対象にして、提供プログラムの改善のため、進路指導関連アンケートを実施する。 本科2年対象の先輩講座では卒業生同窓会と連携しそのネットワークを通じて講師派遣を依頼する。さらに、先輩講座に協力できる卒業生リストとして先輩講座人材登録一覧を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が閲覧できる進路情報フォルダの内容を最新のものに随時更新した。また、全国高専共通利用型進路支援システムを活用し、キャリア支援室などのパソコンで求人情報の検索ができるよう利便性を図った。 1年生対象のキャリアガイダンスを5月23日に実施した。 2年生を対象に卒業生による先輩講座を7月11日に実施した。さらに在学生による先輩フォーラムを11月7日に実施した。 専攻科・大学・大学院合同説明会を10月26日に開催した。 女子学生向けの就活マナーとメイク講習会を12月12日に実施した。また、専攻科1年および本科4年を対象に就職対策講座を2月20日に実施した。 本科4・5年および専攻科1・2年を対象にして、進路指導関連アンケートを12月に実施し、高い満足度の集計結果が得られた。 本科2年対象の先輩講座では卒業生同窓会と連携しそのネットワークを通じて講師派遣を依頼した。さらに、先輩講座に協力できる卒業生リストとして先輩講座人材登録一覧を作成した。 3月6日に開催予定だったキャリア教育セミナー(合同企業説明会)は、新型コロナウイルス感染症対応のため中止した。
1 2	社会連携に関	<ul style="list-style-type: none"> 企業等との共同研究の成果などについて、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」をはじめ、本校ホームページや外部メディアなどに積極的に発信する。 第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備などについて情報共有を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を12月11日(水)に鯖江市内で開催した。本校教職員の研究シーズや共同研究事例などについてポスター発表を行うとともに(学内24件、外部から2件)、本校電子情報工学科と電気電子工学科の教員が行っている共同研究プロジェクトについて地元TV局の取材を受け、夕方のニュース番組で約4分間放映された。 本校に勤務する教職員(計91名)それぞれの研究シーズや相談可能分野などを冊子「JOINT2019」としてまとめ、学外関係個所に広く配布してPRした。 第3ブロック内で拡大研究推進ボード会議などを通じて高専間での研究者情報や関連設備などについて情報共有を常時図っている。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
関する事項		<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」を活用して地元の企業との共同研究の掘り起こしに努める。 毎年12月に行っている本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」においてその成果の一部を積極的に学外発信する。 越前市・鯖江市が催す産業フェアにおいて、本校活動の広報に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> テクノセンター長が中心となって「地域連携アカデミア」の組織拡大を図っており、3月31日(火)現在で会員企業数が89となっている。産学連携コーディネーターも活用してこれら企業との共同研究テーマの掘り起こしに努めている。 本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を12月11日(水)に鯖江市内で開催し、学内外から約100名が参加した。そこで本校教職員による研究シーズや共同研究の事例紹介(一部)などについて計25件のポスター発表を行い、活発なディスカッションが交わされた。 9月中旬に開催された「越前ものづくりフェスタ」に出展し、本校学生による理科実験教室などについて来場者(越前モノづくりフェスタには3日間で累計55,300人が来場)に積極的なPRを行った。また10月下旬に開催された「鯖江ものづくり博覧会」にも出店し、入試関連情報を中心として来場者(特に中学生たち。なお、鯖江ものづくり博覧会には3日間で累計16,000人が来場)に積極的なPR活動を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> 定期的に報道関係者との懇談の機会を設けるなど、報道関係者との関係構築に取り組む。 地域コミュニティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続ける。また、地方雑誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供していく。 イベントやニュースを、高専として窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達する。 本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を年末に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に報道関係者との懇談の機会を設けるなど、報道関係者との関係構築に取り組んだ。 地域コミュニティーFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続けた。また、地方誌「夢レディオ編集室」の紙面を通じて継続的に情報を提供した。 イベントやニュースを、高専として窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達し、本校における題材を広く公表した。 本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を今年も12月11日(水)に鯖江市内で開催し、学内外から約100名が参加した。そこで本校教職員による研究シーズや共同研究の事例(一部)について計26件のポスター発表が行われた。
1 ・ 3 国際交流等に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> 従来の国際連携や留学生等の受け入れを発展させる形で、校長のリーダーシップの下、支援・協力を進める。 タイのKOSEN開校式に参加し、連携・支援策を模索する。 高専機構本部のグローバルエンジニア支援事業に申請する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度4月、新任の校長が着任し、国際連携への貢献拡大として、来年度よりタイ高専への教員派遣を決定した。 5/12に開催されたタイのKOSEN開校式に校長が参加し、連携・支援策を模索した。 高専機構本部のグローバルエンジニア支援事業に「工学基礎を扱った実践的技術英語教育プログラムの開発と実施:技術英語コミュニケーション能力と海外進出マインドの育成」の事業名で申請し、結果は不採択であった。
		<ul style="list-style-type: none"> 「KOSEN」の導入支援には、本校のグローバル化への取り組みにも関連付けて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度4月、新任の校長が着任し、今後の方策について検討を行っているところであるが、来年度よりタイ高専への教員派遣が決定した。【再掲】
		<ul style="list-style-type: none"> 本校の国際化を推し進めるために、高専機構本部の事業に参加する体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「トビタテ!留学JAPANに関する説明会」を、10/30(高専機構主催)、11/14(本校主催)の計2回学内で開催し、同事業への申請を促した。その結果、次年度に渡航する高校生コースに本科1年生1名と2年生2名の計3名が応募した。
		<ul style="list-style-type: none"> 本校ホームページの英語版の作成を進め、国際的な広報活動に努める。 国際交流室ならびに学寮のホームページに英語版コンテンツを追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校ホームページの英語版ページに国際交流室の英語版コンテンツを追加した。学寮の英語版ページの作成は次年度の課題とする。
		<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生委員会において、留学生の成績、進路先、現在の状況を確認し、今後どのような視点で指導をしていくか、意見交換を行った。
2 費等 の1 業務運営の効率化 一般管理 の効率		<ul style="list-style-type: none"> 業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。 複数年契約が可能なものから実施し、コストの削減、業務の効率化を図る。 随意契約から一般競争契約に変更が可能な管理費において、コストの削減を図る。 運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。なお、毎年の運営費交付金額の算定については、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 契約にあたっては、原則仕様策定による一般競争契約とし、競争性や透明性を維持している。 複数年契約は可能なものから実施し、コストの削減及び業務の効率化を図っている。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
化 に 関 す る 事 項	2 適 正 化 3 契 約 の	<ul style="list-style-type: none"> ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性の確保を図る。 ・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。 ・2019年度施設整備事業2件の設計業務は、透明性・公共性を確保するため、簡易公募型プロポーザル方式(拡大)で公募する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争契約8件及び企画競争1件について実施し、仕様策定により透明性や競争性の向上を図った。 ・北陸3高専の共同調達1件により、一層のコスト削減、効率化を図った。
3 予 算 管 理 行 ・ 単 独 的 な 見 積 も り を 含 む 。、 収 支 計 画 及 び 資 金 計 画	3 予 算 管 理 行 ・ 単 独 的 な	<ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成31年度予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費については3%、その他は1%の業務の効率化を行った。
	3 ・ 2 外 部 資 金 、 寄 附 金 そ の 他 自 己 収 入 の 増 加	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業数の増加に引き続き努力し、寄附金のさらなる獲得につなげる。 ・産学連携コーディネーター等を活用し共同研究等を推進するとともに、公募型の競争的資金に挑戦する。 ・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施する(4月)。 ・2020年度科学研究費助成事業(科研費)公募要領等説明会へ研究推進委員会委員を派遣する(9月)。 ・本校「科研費採択プロジェクト」を立ち上げ、採択率の向上を目指す。 ・全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供(メール配信・学内Webサイト公開・説明会等開催)を継続実施する(随時)。 ・教員の研究内容・研究水準の質的向上と外部資金獲得への意識向上・意識改革のために、より具体的かつ効率的な研究支援・インセンティブ及び産官学連携共同研究プロジェクト推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンター長が中心となって「地域連携アカデミア」の組織拡大を図っており、3月31日(火)時点で会員企業数が89となっている。結果としてこれらの企業からの寄附金も3.0パーセント増加した(昨年比)。 ・高専機構本部のKRAのディレクションの下、本校独自で雇用する産学連携CDとも常に協力しながら共同研究を進め、A-STEPに1件の研究プロジェクトにかかる大型予算の申請を行った(残念ながら不採択)。 ・4月に全教員(73名)対象の「研究活動評価調査」を実施した結果、本年度は特に十分な研究活動レベルと判断されるランクの教員が51名(69.8%) (昨年度実績64名(85.3%))に減少し、総合的にはレベル維持には至らなかった。 ・「平成31年度科学研究費助成事業(科研費)」の申請・採択状況については(平成31年4月)、教員の申請件数は38件(新規31件・継続7件、新規申請率50.0%)であり、緩やかながら回復傾向にあった平成30年度実績52件に比較して大幅に減少し、採択件数は10件(新規3件・継続7件、新規採択率9.7%、総額11,180千円)、教員1人当たりの直接経費獲得額は125千円であり、実質的な達成度は前年度とほぼ同レベルにとどまっている。 ・教員の科研費申請率・採択率・獲得額向上のために、「令和2年度科研費申請事前調査」を6月に実施すると共に、「科研費セミナー“採択される科研費申請のノウハウ”」(7月)及び「科研費ワークショップ」(7月)を開催し、教職員65名が参加した。また、「令和2年度科研費公募要領等説明会」(9月)に教職員3名を派遣、「令和2年度高専機構本部科研費説明会」(9月)には教職員18名が参加し、全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供とその内容の周知徹底を図った。 ・「令和2年度科研費」の申請状況(令和元年11月)は、教員の申請件数47件(新規38件・継続9件、新規申請率69.1%)であり、平成31年度実績に比較してかなりの増加・回復傾向にある。 ・教員の研究力の質的向上と科研費等外部資金獲得に向けた産官学連携共同研究プロジェクト推進及び研究計画調査読体制の構築・整備と円滑運用を図る。
途 7 剰 余 金 の 使		<ul style="list-style-type: none"> ・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生への充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度決算において剰余金は399,554円であり、次年度の教育研究活動の充実、学生の福利厚生への充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てることとした。

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
8 その他 主務省令で定める業務運営に関する事項	8 ・ 1 施設及び設備に関する計画	<p>①-1: 福井工業高専の老朽化したインフラ設備及び老朽化した教育研究施設・学寮施設への対策として、2019年度の施設整備予定事業として(1)ライフライン再生(排水設備等)・(2)校舎改修(地域連携テクノセンター)を、営繕予定事業として(1)受変電設備改修・(2)東寮外部改修をそれぞれ実施予定である。</p> <p>①-2: 建物外壁及び工作物の非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、立入禁止等の処置を行い、早期に補修を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。</p> <p>③: 科学技術分野への男女共同参加を推進するため、女子学生・女性教職員が使用するトイレにおいて和式の箇所を計画的に洋式に改修し、修学・就業上の環境整備を推進する。</p>	<p>①-1: 福井工業高専の老朽化したインフラ設備及び老朽化した教育研究施設・学寮施設への対策として、2019年度の施設整備事業として(1)福井工業高専ライフライン再生(排水設備等)工事(工期: 令和元年9月6日～令和2年3月27日)・(2)福井工業高専校舎改修(地域連携テクノセンター)工事(工期: 令和元年8月27日～令和2年3月16日)、営繕事業として(1)福井工業高専電子情報工学科他受変電設備改修工事(工期: 令和元年10月16日～令和2年2月28日(3月25日に完成期限を変更契約した))を発注した。結果、施設整備事業(1)以外は工期内に工事を完了した。施設整備事業(1)については、次の理由(配管更新のための掘削工事において、当初想定していなかったコンクリート塊等の支障物の撤去処分及び不明配管等による経路変更等により想定外の日数を要した)により事業の繰越しを行い、令和2年5月29日に完成予定である。</p> <p>①-2: 東寮は、外壁鉄筋爆裂によるコンクリート片落下や浮き等の発生、屋上防水劣化に伴う漏水及び外部建具不良に伴う漏水等が依然より問題となっていたが、前述の営繕事業(2)の工事完成により、学寮生の安心・安全を確保することができた。</p> <p>①-3: 女子学生及び女性教職員からの要望に基づき、令和元年度は複利施設1階女子トイレの和式トイレ1箇所を洋式に令和2年3月に改修する予定であったが、コロナウィルスの影響で製品の納期が遅れ令和2年5月頃には工事が完成する見込みであり、引き続き女性教職員の就業環境改善に努める。</p>
	8 ・ 2 人事に関する計画	<p>(1) 方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の外部コーチ(課外活動指導員)及び内部コーチの制度を発展させ、弾力的な運用を図ることで、指導教員の負担軽減に寄与する制度改革を推進する。 ・定年退職した再雇用教員による学寮日直業務の従事により、現職教員の寮業務見直し(軽減)を図る。・学寮自治(「寮生会」)活動の活性化を一層支援することで、寮生の気づきと自律を促す教育機会をこれまで以上に設定する。この結果、昼食時の寮内巡回(施錠確認)といった寮生指導等に関する日常業務の軽減(見直し)を目指す。 ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、教員及び事務・技術職員を対象とした各研修会等に参加させ、一層の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面での問題に起因した悩みの解消の場として昨年度開設した「第2学生相談室」を、本校非常勤講師や本校OB/OG教員の協力を得て今年度も運用し、昨年度比で人数は5倍(5人)、時間数は約2.6倍(25.5時間)となっている。 ・機構通知30高機学第155号「課外活動の在り方及び寮業務に関する総合的な方針」に基づき「福井高専における課外活動の在り方」を審議し、①部・同好会活動の顧問の再定義、②単独で引率可能な課外活動指導員の採用、③学校として(全体での)指導教員配置方法の検討、④課外活動に関する議案の取り扱いの見直し、⑤適切な休養日の設定について基本方針を定めた。令和2年度からの施行に向け、関係規則等の改正を行った。 ・部・同好会の精査(整理)により、廃部2件、同好会から部への昇格2件が決まっている。 ・部・同好会の活動状況を調査し適切な休養について確認したうえで、顧問業務の軽減や平滑化の推進のため特に負担が大きい部活動に8名の指導教員Bを配置した。 ・今年度課外活動指導員の雇用に関する関係規則を制定したうえで、令和2年度からの運用開始に向けて準備を進めた。 <p>・定年退職した元(再雇用を含む)教員(本年度実績計6名)による学寮日直業務の従事が予定通り実施され定着している。</p> <p>・学寮自治(「寮生会」)活動の活性化のための支援や、寮生の「自立と自律」を促す教育機会の提供(本校の指導重点目標でもある)を目的として、以下の主要行事を実施した。タイ王国のプリンス・オヴ・ソングラ大学工学部から短期留学生男子2名及び、キングモンクット工科大学から短期留学生女子1名を学寮に受け入れ、本校学寮寮生との交流会を7月2日に開催した。この行事には寮生会役員を中心に多数の寮生(26名)が自主的に参加し、大変有意義な国際交流事業となった。また、グローバル環境構築に資する学寮新築(国際寮)案を作成した。更に、寮生の違反件数減少により寮内巡回等常務を減らしたがその後も継続している。寮生指導等に関する日常業務の軽減(見直し)を今後も進めていく。</p> <p>・上記事項は過年度においても常に重点項目として取り組んでおり、取り組みの継続性や実績の履歴からも方針は妥当であると判断できる。</p>

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
			<p>(教員交流制度) ・高専・両技科大間の教員交流制度について、教育職員の人員枠削減の影響もあり、人力的な余裕がないことや、本校への交流を希望する他高専の教育職員がいないことから、今年度は活用できなかったが、令和2年度においては、教員1名を機構本部(タイ高専)へ派遣することが決定し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上が期待できる。</p> <p>(研修会参加) <教育職員> ・4月25～26日に開催された機構本部主催「新任校長研修会」に参加した。 ・5月9日～10日及び8月21日～22日に開催された機構本部主催「新任教員研修会」に3名が参加した。 ・8月7日～9日に開催された機構本部主催「中堅教員研修」に2名が参加した。 ・8月20日に開催された福井地方検察庁主催「法教育に関する教員研修」に1名が参加した。 ・9月2日～3日に開催された機構本部主催「教員管理職研修」に校長補佐1名が参加した。</p> <p><事務職員> ・4月8日～9日に開催された金沢大学主催「北陸地区国立大学法人等初任者研修」に6名が参加した。 ・5月20日～22日に開催された機構本部主催「初任職員研修会」に5名が参加した。 ・6月10日～11日に開催された機構本部主催「新任課長研修」に学生課長1名が参加した。 ・6月13日～14日に開催された金沢大学主催「北陸地区国立大学法人等マネジメント研修」に事務部長、学生課長の計2名が参加した。 ・9月17日～19日に開催された機構本部主催「人事事務担当者説明会」に人事労務係長1名が参加した。 ・10月23日～25日に開催された機構本部主催「若手職員研修会」に1名が参加した。 ・10月29日～30日に開催された富山大学主催「北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会」に1名が参加した。 ・11月19日～20日に開催される福井大学主催「北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修」に課長補佐1名が参加した。</p> <p><技術職員> ・8月26日～28日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(物理・化学)に技術職員2名が参加した。 ・8月28日～30日に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術専門職員、技術職員計2名が参加した。 ・8月26日～28日に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・8月28日～29日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(情報)に技術専門職員1名が参加した。 ・10月29日～30日に開催された富山大学主催「北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会」に技術職員2名が参加した。</p>
(2)	人員に関する指標	・常勤教職員について、各種研修などを利用し、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。	<p>(研修会参加) <事務職員> ・4月8日～9日に開催された金沢大学主催「北陸地区国立大学法人等初任者研修」に6名が参加した。 ・5月20日～22日に開催された機構本部主催「初任職員研修会」に5名が参加した。 ・6月10日～11日に開催された機構本部主催「新任課長研修」に学生課長1名が参加した。 ・6月13日～14日に開催された金沢大学主催「北陸地区国立大学法人等マネジメント研修」に事務部長、学生課長の計2名が参加した。 ・9月17日～19日に開催された機構本部主催「人事事務担当者説明会」に人事労務係長1名が参加した。 ・10月23日～25日に開催された機構本部主催「若手職員研修会」に1名が参加した。 ・10月29日～30日に開催された富山大学主催「北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会」に1名が参加した。 ・11月19日～20日に開催される福井大学主催「北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修」に課長補佐1名が参加した。</p>

第4期中期計画 令和元年度年度計画・実績報告

		福井高専 令和元年度 年度計画	福井高専 令和元年度 年度計画 実績報告
			<p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月26日～28日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(物理・化学)に技術職員2名が参加した。 ・8月28日～30日に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術専門職員、技術職員計2名が参加した。 ・8月26日～28日に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・8月28日～29日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(情報)に技術専門職員1名が参加した。 ・10月29日～30日に開催された富山大学主催「北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会」に技術職員2名が参加した。 <p>(人員配置)</p> <p>4月1日及び7月1日付けで事務職員の採用及び配置換等の人事異動及び福井大学との人事交流を行い、適切な人員配置を行うとともに、職員の能力向上、効率化を図った。</p>
8 ・ 3	情報セキュリティについて	<ul style="list-style-type: none"> ・「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人の情報セキュリティポリシーを踏まえて、情報セキュリティに関する監査などの結果に基づき、学内のリスク分析を通してセキュリティ対策の維持・向上を図る。 ・学内のパソコンやネットワーク機器のネットワークへの接続状況や、OSの更新やファームウェアの更新などの状況を報告する体制を整え、ネットワークを経由した攻撃に備える。 ・全教職員の情報セキュリティに関する意識向上を図るために、情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール対応訓練等に積極的に参加する。さらに管理職や情報担当者向けの情報セキュリティに関するトップセミナーや講習会に積極的に参加する。情報担当者を対象とした情報セキュリティの講習にも積極的に参加し、情報システムの管理運用業務を担える担当者の拡大を目指す。 ・高専機構のCSIRTなどの発信するインシデントの予兆やインシデント対応の情報を、タイムリーに学内で情報共有し、インシデント発生時の初期対応である「すぐやる3箇条」の徹底を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防や被害拡大を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月14日、15日の情報セキュリティ監査を実施し、いくつかの助言アドバイスの事項はあったが、改善が必須となる指摘事項は無かった。 ・情報漏洩対策としてOffice365の多要素認証を原則としたポリシーの見直しを行った。これに合わせ、多要素認証説明会を12月18日に教員向け、12月23日に事務員向けに実施した。 ・学内パソコンのネットワーク接続やOSの更新状況を報告するための書式を定め、SharePointを通して定期的に情報更新を行うようにした。 ・11月5日～7日の機構主催の情報担当者研修会に計3名が参加した。 ・11月1日に機構主催の第1回標的型攻撃メール対応訓練が行われ「すぐやる3ヶ条」について実践した。102名が参加。2月7日に実施された第2回の訓練では23名からの報告があった。 ・11月15日情報セキュリティトップセミナーに24名参加。令和2年2月27日情報セキュリティトップセミナーに22名参加。 ・情報インシデントの兆候について、重大なものは情報を全教職員に配信し、情報処理センタースタッフ間でもCSIRTなどの情報を共有している。 ・JPCERT,JVNなどの脆弱性情報を情報処理センターHPIにて最新の情報を提供するようにした。
8 ・ 4	内部統制の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ・報告、連絡、相談がスムーズにでき、PDCAが円滑に回るような運営体制の維持と機能向上に努める。 ・機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を行う。 ・講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。 ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況の維持に努める。 ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分として、34件12,167千円を配分した。 ・新任教職員オリエンテーション(4月1日開催)の際、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・総務課長より研究推進委員会(4月10日開催)及び教員会議(4月23日開催)で公的資金の適正な管理及び執行について周知した。 ・総務課長が講師となり、全教職員を対象としたコンプライアンス講習会(4月23日及び4月25日開催)を実施した。あわせて理解度チェックのためアンケートを実施した。 ・令和元年度高専相互会計内部監査として、令和元年11月28日、本校において石川工業高等専門学校が監査校となり監査を行い、併せて両校と会計関係等の情報交換を行った。また、令和2年3月、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めた。 ・令和元年度東海・北陸地区会計系事務職員ブロック研修会(TV会議2月27日開催)において、機構本部職員が講師となり、「予算決算、消費税及び相互監査指摘事項等」に関する講義が開催され、総務課財務系職員(8名)が受講し、不正経理の防止やコンプライアンス意識の向上を図った。 ・機構本部主催の「会計監査人によるコンプライアンス研修会(TV会議3月4日開催)」において、有限責任監査法人トーマツより、公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修が開催され、総務課財務系職員(8名)が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。 <p>・監事監査を受審し、本校の教育内容等について講評・指導を頂いた。</p> <p>・新たに本校の将来像を模索するために、校長直轄として「未来戦略会議」を立ち上げ、アドバイザー3名を迎えた。今後、2箇月に1度開催し、本校の未来についてより実質的で有効な戦略を見出すため議論し、議論の固まったものから本校の施策の中に取り入れていくこととした。</p>